

ほやほや

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.057

平成29年1月発行



日本赤十字社 福井赤十字病院
Japanese Red Cross Society

ご自由に
おとりください。



新年のご挨拶

ダヴィンチXi(手術支援ロボット)稼働中

パーキンソン病の 脳深部刺激療法について

雅楽演奏会開催
クリスマスイベント開催
病院敷地内の清掃活動
認定看護師紹介
マスクの自動販売機設置
がん患者さんに質の良い相談支援を
4Dエコー外来開始
リハビリで大活躍!手づくりお手玉
花粉症の症状緩和レシピ

栄養課
おすすめ!

花粉症の症状緩和レシピ

花粉症とは、本来無害な花粉が体内に入った際、有害なものとして過剰に免疫が働くアレルギー症状の一つです。くしゃみや鼻水への最も良い対策は、花粉を吸い込まないことですが、食品については、アレルギー症状を引き起こすヒスタミンの生成を抑える甜茶(てんちゃ)や、免疫に関わる腸内で働くビフィズス菌・乳酸菌を摂ることで症状が和らぐことが分かっています。

日常的に乳酸菌やビフィズス菌を摂ることは大切ですが、菌の活動にはエサとなるオリゴ糖やエネルギー源となる水溶性食物繊維が必要不可欠です。

今回は水溶性食物繊維が手軽に摂れる旬の野菜レシピを紹介します。

<腸も喜ぶ ごぼう汁>

作り方

- ① ごぼうは包丁の背で軽く皮をこそげとり、ささがきにして水にさらす。
里芋と人参は皮をむき、いちよう切りにしておく。
- ② 熱したフライパンにサラダ油を入れ、ごぼうを炒める。
椎茸は、軸は斜め切りに、笠は薄切りにする。
- ③ 鍋に出汁を入れて、打豆を煮る。打豆がやわらかくなったら、ごぼう、さといも、人参を入れて煮る。
- ④ 味噌を加えて調味する。お椀に盛付けて長ねぎを散らす。



材 料 (2人分)

ごぼう.....30g
サラダ油.....5g
里芋.....60g
人参.....20g
打ち豆.....12g
長ねぎ.....10g
出汁.....300cc
味噌.....12g

エネルギー 1人分

エネルギー.....134kcal
たんぱく質.....4.7g
脂質.....6.6g
炭水化物.....14.2g
食物繊維.....4.3g
(水溶性食物繊維.....1.2g)
塩分.....0.7g

CHECK

厚生労働省が定める基準では、食物繊維は1日あたり成人男性20g以上、成人女性18g以上(70歳以上:男性19g以上、女性17g以上)摂ることが望ましいとされます。しかし、直近の国民健康栄養調査では14.8gという結果でした。水溶性食物繊維の摂取も少ないため、毎日積極的に摂ることをおすすめします。

今回の表紙

質の高い医療を目指して

2016年2月に導入したダヴィンチXi(手術支援ロボット)。手術はロボットがすると思われがちですが、術者(医師)が患者さんと同じ部屋で機械(コンソール)を操作し、カメラや鉗子を動かし手術を行います。医師、看護師、臨床工学技師でダヴィンチチームを形成、現在までで24例(2016年12月末時点)の前立腺全摘除術を施行しました。「ダ・ヴィンチ手術サティフィケート」資格を取得した医師も2名おり、質の高い医療の提供に向けて日々、前進しております。

詳細は、腎臓泌尿器科担当医にお尋ねください。



+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630代 FAX.0776-36-4133
E-mail webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
http://www.fukui-med.jrc.or.jp/
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できたて“ほやほや”の情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。

ダヴィンチXi(手術支援ロボット) 稼働中

開腹手術や腹腔鏡手術と比べ、
質の高い手術が可能になりました。



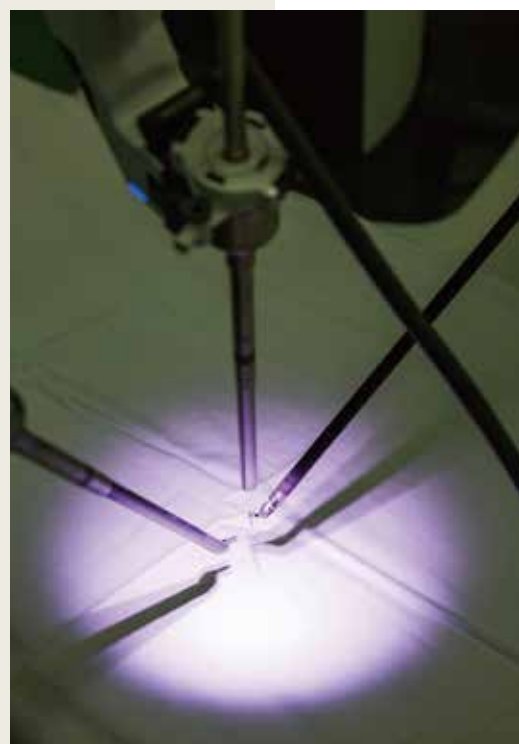
腎臓・泌尿器科部長
河野真範

当院では前立腺癌に対し2010年より腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始しており、2016年2月からは最新機種ダヴィンチXiを導入しロボット支援手術を開始しました。現在までに24例(12月末時点)のロボット支援前立腺全摘除術を施行し、いずれも経過は良好です。また2016年4月から腎癌に対するロボット支援腎部分切除術も保険適応となりました。施設認定が必要となるため現在準備を進めています。

鏡手術では腹壁においたポートを支点に鉗子を動かすため、術者が手を右に動かせば鉗子は体内で左に動きます。上下も逆になります。また前立腺のような骨盤深部での操作時には、手と支点となるポートまでの距離が短く、逆にポートから作用点である鉗子の先端までの距離は長くなります。この場合手を僅かに動かしただけで、鉗子の先端は大きく動くことになり、腹腔鏡手術では術者に高い技量が問われ、円滑な手術進行のためには腹腔鏡手術トレーニングボックスでの練習と実際の手術での経験蓄積が

必要となります。一方、ダヴィンチ手術でも腹壁を支点とし鉗子を動かす点は一緒ですが、機械制御により術者の手を右に動かせば体内の鉗子は右に動き、上に動かせば同じように上に動きます。体腔内の浅いところでも深いところでも機械が補正し同じ感覚で動きます。これら操作は直感的に行え、腹腔鏡よりも簡単に習得できます。腹腔鏡に慣れていれば数例の経験でダヴィンチ手術を行うことができますが、逆にダヴィンチ手術のエキスパートであっても腹腔鏡の経験がなければ

腹腔镜手術を行うことはできません。これらの利点により通常の開腹手術や腹腔鏡手術に比べて質の高い手術が可能であり、習得が容易であるため米国では前立腺全摘のほとんどがロボットで行われています。本体および維持費が高価である事は難点ですが、前立腺全摘除術や腎部分切除術など高難度の手術においてロボット手術の利点は大きいと考えます。当院では、ダヴィンチの導入により、多くの患者さんに質の高い治療を提供することができればと思います。



術者の直感と同じように鉗子の先端を操作できます

2017年 新年のご挨拶

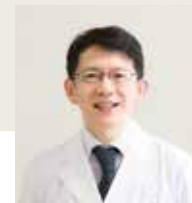
院長 野口正人



新年明けまして、おめでとうございます。
地域の皆様にはご家族お揃いで、良き年を迎えられたこととお慶び申し上げます。
また、平素より当院の診療活動にご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
昨年、当院では、新棟「先進中央棟」やリニューアルされた外来、健診センターが本格的に稼働し、今では全体が馴染んで参りました。そうした矢先、4月には熊本地震が発生し、被災地への災害救護班の派遣や震源地に近い熊本赤十字病院への支援活動で慌たしい年でもありました。熊本の復興を、東日本大震災の被災地の復興と同様、いつまでも見守りたいと思います。
さて今年は、「人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行ないます」という病院の理念をしっかりと見据えて、「結びぎずな、地域とともに」を合言葉に、「体と心に優しい、優れた医療」を提供して参ります。そして、安全で安心できる医療の提供を第一の目標として、全職員が一丸となって更に邁進(まいしん)したいと思います。

先進的な医療として、ロボット(ダヴィンチXi)支援による手術や4次元放射線治療(VeriDoc)は順調に稼働し、副作用が少ない手術や治療が行われています。新棟のアイセンターでは日帰り手術が増えました。
医療は患者さん一人ひとりにとって、微妙に異なる場合がありますので、今年も、内科系と外科系の医師達が協働し、患者さんにとって「最良の医療」を選択していきます。脳神経センター、呼吸器センター、消化器センター、腎センター(腎臓泌尿器)、がん診療センター、地域周産期母子医療センターを軸にして、患者本位の高度専門医療を提供していきたいと思っています。そして、病状が安定しましたら、かかりつけ医の先生方との医療連携を深めて参ります。
今年も医療、保健、福祉を通して、地域の皆様の健康長寿に貢献したいと考えていますので、皆様のご理解と変わらぬご支援をお願い申し上げます。
結び、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

パーキンソン病の脳深部刺激療法について



脳神経外科部長
戸田弘紀



脳卒中センター長
神経内科部長
高野誠一郎

治療後は、症状が軽くなったり、
お薬の量を減らすこともできます。

パーキンソン病は中高年に発症し徐々に進行すると体の動きが不自由となる病気です。また最近では認知機能や睡眠、その他の精神症状などについても注目されており、包括的な治療や介護の重要性が指摘されています。

治療の主体はお薬の内服ですが、その種類は多く、主治医が、お一人お一人の病状に合わせて適切なお薬を選ばれていると思います。また最近では貼リ薬も一般的になっており、以前に比べると内科的治療の進歩は目をみはるものがあります。

しかしながら、発症や治療開始から数年以上を経過していると、薬の効果が十分に現れない時期が現れるようになってきます。病状の進行速度には個人差がありますが、このようにこれまで通り薬の効果が得られなくなってきた時に検討する治療法が脳深部刺激療法です。

これはパーキンソン病の方の脳の回路の一部が非常に活

発になって、正常な動きができなくなっているところを修正しようとする治療法です。

この治療を行うためには手術が必要となりますが、淡蒼球（たんそつきゅう）や視床下核（ししょうかく）という脳の一部に非常に細い電極を埋め込みます。そして埋め込んだ電極に弱い電流を流すことで、活発になりすぎた神経の回路を静かにさせることができます。

この治療を受けられると動けなくなる時間が短くなったり、震えが軽くなったり、また病状や刺激の部位によってはお薬の量を減らすことができます。

当院にはこの治療に経験を持つ医師が勤務しています。治療法についてご相談されたい方は、月曜日または水曜日の神経内科あるいは火曜日午後の脳神経外科外来受診をお勧めします。

リード

脳内に挿入し、先端の四つの電極で脳を電気刺激します。

延長用ケーブル

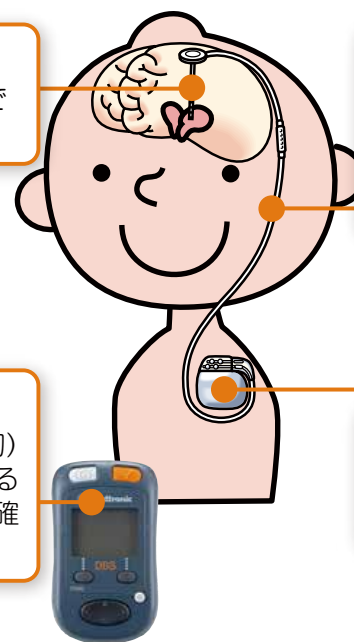
リードと神経刺激装置をつなげるもので、神経刺激装置でつくった電気刺激をリードへ伝える役目をしています。

患者用プログラマ

神経刺激装置のON(入)/OFF(切)切り替えや、スイッチが入っているかどうか、電池があるかどうかの確認ができます。

神経刺激装置

電気回路と電池が内蔵されており、治療用の電気刺激を発生する装置です。



音楽

雅楽の美しい音色に
聞き入りました



箏楽（ひちりき）や笙（しょう）などの紹介を交えながら雅楽3曲を披露

さる10月20日（木）、福井県神道青年会による雅楽の演奏会が行われました。この日は、日本赤十字社名誉総裁、皇后陛下の御誕生日であり、その奉祝と、入院通院されている方の一日も早い回復等の意味を込めての演奏会となりました。

入院患者さんをはじめ、たくさんの方が、厳かにして美しい雅楽の音色に聞き入っていました。最後には「ふるさと」の演奏とともに、ご参集の皆様で合唱しました。

クリスマス

患者さんたちに、
クリスマスの雰囲気



キャンドルサービス



ボランティアさんによる作品



緩和ケア病棟クリスマス会

緩和ケア病棟 リラクゼーションルーム



クリスマスコンサート



掃除

病院敷地内の清掃
活動を行いました



さる11月28日（月）、玄関前に草が生えている」とのご意見をいただき、ゴミ拾いと同時に除草を行いました。また、融雪装置の点検、目詰まりをとるためのノズル掃除も行いました。多少の雪ならこれで溶かれます。雪が降ってもなるべく気持ちよく駐車場をご利用いただけるよう冬支度をしました。

これからも、患者さんのご意見を反映できますよう努めてまいります。

玄関前清掃



草は、「こんなところにも!」という部分にも生えており、くまなく除草しました

融雪装置点検

数100か所あるノズルを一つひとつチェックしました



清掃前 清掃後

認定看護師
紹介①

手術看護
認定看護師

手術を受ける患者さんやそのご家族の方は、「手術室ではどのようなことをするのか」「麻酔をかけたら目が覚めなくなることはないのか」など緊張や不安、手術を受けることへの期待や覚悟など、様々な思いを持たれていると思います。患者さんやご家族のこのような思いを少しでも和らげることができ、安心して手術に臨むことができるように、手術前日までに術前外来や術前訪問を通して身体的・心理的な支援を実施しております。

また、手術は患者さんを中心に医師・麻酔科医師・看護師・臨床工技師・薬剤師・放射線技師などがチームとなって関わらせていただきます。様々な職種との連携を行い、術後までの看護が継続できるように努め、質の高い周術期看護が実践できるように、スタッフの指導や関連病棟や外来からの相談も受け付けております。

手術や麻酔に関して不安や不明な点がありましたら、どうぞご遠慮なく声をおかけ下さい。



手術への不安は一人ひとり違います。「こんなこと聞いてもいいのかな？」ということでも気軽にどうぞ

手術看護認定看護師

長谷川 友美



認定看護師
紹介②

がん性疼痛看護
認定看護師

痛みがあると、思うように動けなかったり、夜眠れなかったりします。気分が落ち込むことも少なくありません。痛みが続くと、気力も体力も失われます。

がんの痛みにはガイドラインに基づく安全な治療が行われます。痛みの治療に早過ぎるということはありません。がん治療と痛みの治療を並行して受けることで、がん治療を受けるための体力維持に役立ちます。まずは「痛みがあります。こういうことで困っています。」と医療者に伝えることが大切です。

当院には苦痛を和らげることを専門にした緩和ケアチームがあり、私もその一員です。がんの痛みでお困りの方は、お近くのスタッフにお声かけください。看護外来でもご相談いただけます。



緩和ケアチームによるカンファレンス

がん性疼痛看護認定看護師

寺井 智子(右)

奥村 有香(左)



看護外来の受診を希望される場合は、看護外来までご連絡ください

ご案内

マスクの自動販売機
設置しました

風邪やインフルエンザなどの感染予防を考え、時間外出入口にマスク自動販売機を設置しました。マスク(2枚入り)100円でご購入いただけます。また、1階ローションでも販売しております。特に呼吸器症状のある方は、マスクの着用をお願いします。



がん患者さんに質の
良い相談支援を

当院のがん相談支援センターが、「国立がん研究センター」認定がん相談支援センター」の認定を受けました。

当院ではがん相談員研修を修了した相談員が交代でがん相談窓口(先進中央棟1階)を担当しています。

ご不安なことがありましたらお気軽にお越しください。



助産師による

4Dエコー外来を始めます♪

赤ちゃんは、ママのお腹の中で、いろんな動きをしながらすくすく育っています。手をバタバタしたり、へその緒を触ったり、手を舐めたり、目を開けたり…。でも、妊婦健診のエコーで、「ここが鼻で、ここが目で…かわいいですね」とは言われるものの、「よくわからないなあ」と思うことありませんか？

最近、産院で盛んに導入され、一般的になってきたのが4Dエコーです。当院産婦人科でも、2015年に導入しました。4Dエコーとは、通常の平面(2D)エコーに、奥行き(3D)と時間の要素(4D)を加えたもので、簡単に



赤ちゃんの様子が驚くほどくっきりわかります！

お願い

4Dエコーは異常を見つけるものではありません。赤ちゃんの向きや羊水の関係でいい画像が得られないことがあります。その場合でも返金はありませんので、ご了承ください。

- 対象** 当院に通院されている妊娠15週～30週までの妊娠経過が順調な方
- 日時** 火曜・木曜 ①16:00～ ②16:20～ ③16:40～
- 場所** 女性外来(11番ブース)
- 所要時間** 1人10分間 **費用** 1回 1,620円
- 内容** 助産師が4Dエコーを行い、専用USBに動画を保存してお渡しします。
- 予約受付** 産婦人科外来受付(11番ブース) ※電話予約可

手づくりお手玉が
リハビリで
大活躍しています

当院リハビリテーション科では、手を握る訓練や箸操作訓練、キャッチボール、洗濯物干し動作訓練など、様々な場面でお手玉を活用しています。

今回ご紹介するお手玉は、三原静江さん(福井市在住)から寄付されたものです。2年前にも当院に通院されていた三原さんのお母様が、手づくりお手玉を寄付してくださいました。そのお母様の気持ちと型紙を受け継いで、新たに製作していただきました。

心のこもったお手玉、ありがとございます。大切に活用させていただきます。



色とりどりのお手玉はかわいくて、見ているだけで心がほのぼのします

